

ご挨拶

足掛け3年にわたって計画をすすめられた、関西大学探検部「中国タクラマカン砂漠踏査遠征」が、1995年晩秋に実施され、無事成功をおさめられました。

彼らの偉業を残した報告書を発刊されるにあたり、お祝の言葉を述べさせていただくと共に、多大なるご支援をいただいた中国科学院・新疆生物土壤砂漠研究所ならびに、その他関係機関の方々、また日本国内でお力添え、ご協力を賜りました皆様にも、心から厚く御礼を申し上げます。

日中友好をより深め、民間レベルでの技術交流・技術提携の橋渡し役を努めることを願って設立いたしました日中科学技術協力会議に、関西大学の学生諸君が相談を持ちかけてきたのが縁となり、私共と関西大学探検部との関係が始まりました。

私自身も学生時代に登山やスキーに打ち込んだ経験もあったことから、学生たちのタクラマカン砂漠に賭ける熱意や真剣な姿勢に、心を打たれ、彼らの計画に微力ながら応援させていただくことになったのです。

昨年3月には、中国砂漠研究の第一人者である夏先生が来日され、関西大学100周年記念会館において、探検部顧問教授の川手教授やOB会長を始めとする関係者の方々との和やかな懇親会が行われ、中国と関西大学の友好関係がより深まりました。またその席で、夏先生が中国政府機関に許可並びに全面的な支援を取り次いでくださるとの快いお返事をいただき、遠征計画の実現が可能となりました。

今回の遠征計画は、中国西北部において世界第二の広さの「タクラマカン砂漠」を駱駝と徒歩で全500kmに及ぶ行程を踏破すると共に、砂漠生成を解明するための地学的調査や生物学的調査を行ったものです。学生たちだけの遠征隊であるため、調査結果は十分に行なえたとは言えませんが、このような体験は隊長以下各隊員らが、これからの人生において、大いなる収穫と自信を得たものと思います。また、何よりも全ての予定を計画通りに遂行し、何ら事故もなく帰国できたことは喜ばしいかぎりです。

学生探検とはいえ、一度その目的を定め、計画実現にむけて歩き出せば、前途には幾多の艱難辛苦が待っています。それは学生たちも、最初から覚悟して臨んだもので、この報告書にも、そういった面は非常に強調されています。また、この報告書には、学問上の収穫とは別の意味で、若者たちが人間形成に大いに共鳴する内容が織り込まれているものと感じました。

この日中合同探検を契機として、関西大学、そして中国との間に、新しいかけ橋が構築されることを希望する次第です。私ども日中科学技術協力会議は、これからも日中交流に関わる有意義な諸事業等があれば、力を惜しまず全面的にご支援させていただく所存です。

今回ご協力いただいた関係者各位の皆様におかれましても、このような事業へのご理解とご協力を今後とも賜りますよう、切にお願い申し上げます。

日中科学技術協力会議 代表理事
衆議院議員

中馬弘毅